

平成23年度
富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業
報告書

平成24年3月
富山市

目 次

第1章 本事業の概要.....	1
1-1 事業の目的.....	1
1-2 事業内容と検討体制.....	2
第2章 協議会および検討部会の設置・運営.....	3
2-1 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会.....	3
(1) 目的.....	3
(2) メンバー.....	3
2-2 検討部会.....	3
(1) 目的.....	3
(2) メンバー.....	3
2-3 協議会と検討部会の検討内容とスケジュール.....	4
第3章 学習プログラムの企画・実施.....	5
3-1 学習プログラム確立に向けた考え方.....	5
3-2 副読本への掲載に向けて.....	6
3-3 学習プログラム企画・実施結果.....	7
3-4 今年度実施学習プログラムの内容と評価.....	8
(1) くしとおだんごのまちづくり.....	8
(2) 富山の交通と暮らし ～富山市のおでかけバスって知ってる?～.....	17
3-5 来年度以降実施の学習プログラム内容.....	21
(1) 富山市の環境を守るためのとりくみ.....	21
(2) くしとおだんごのまちづくり (6年生版).....	21

第4章	教員に対する学習プログラムの普及啓発	22
4-1	実施結果	22
(1)	公開授業	22
(2)	教員向けワークショップ	22
(3)	教員の先進地視察	23
4-2	今後の普及啓発のための取り組み	24
(1)	校長会でのPR	24
(2)	教員の先進地視察	24
(3)	教員向け公開授業とワークショップの開催	24
第5章	保護者を含めた市民への啓発	25
5-1	実施結果	25
5-2	今後の啓発のための取り組み	25
第6章	今後のスケジュール	26
6-1	3ヵ年の進め方	26
6-2	来年度の進め方	27
(1)	今年度のまとめ	27
(2)	今後のスケジュール	28

第1章 本事業の概要

1-1 事業の目的

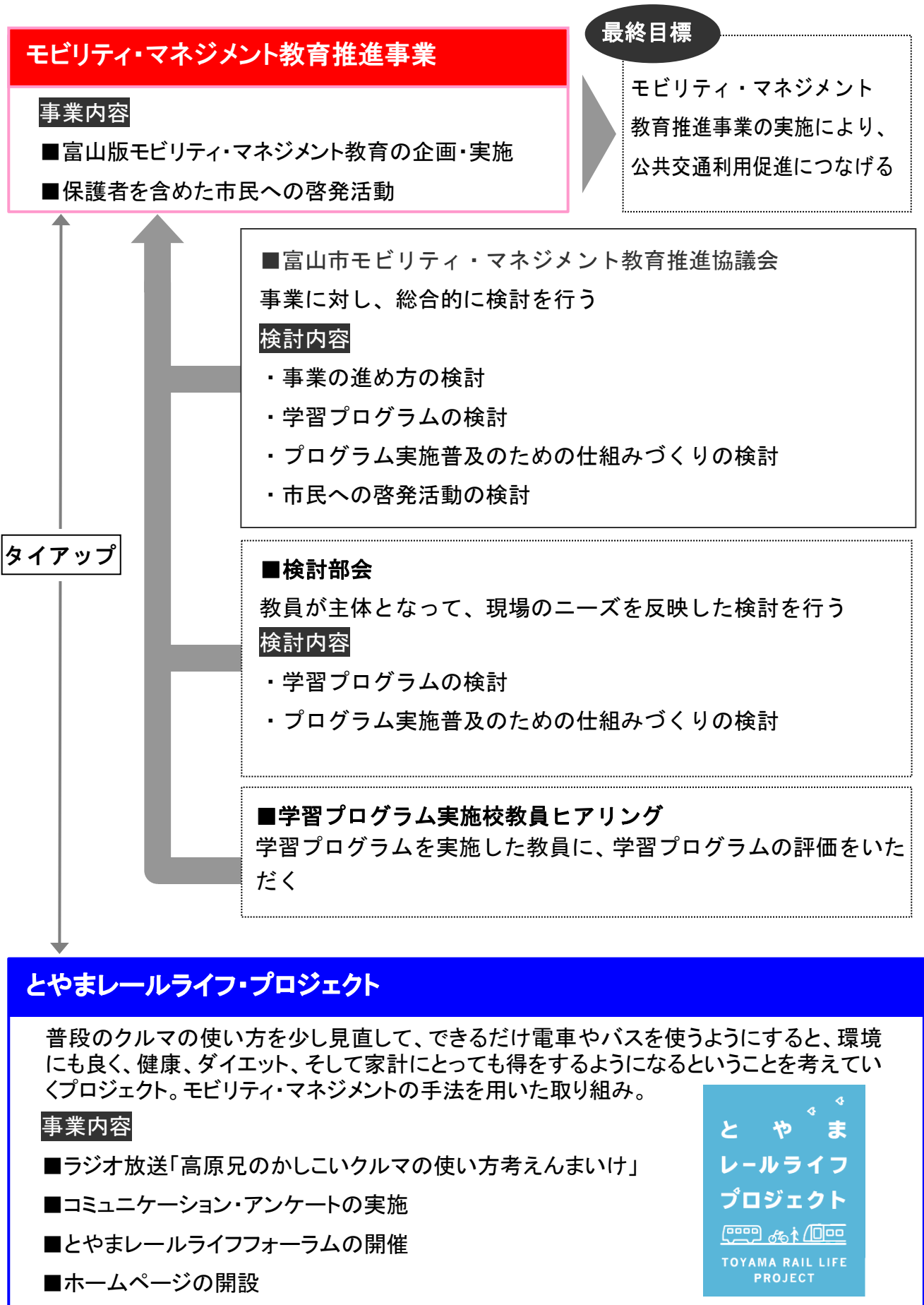
富山市では、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」の視点から、富山ライトレール及び市内電車環状線の開業、JR 高山本線活性化社会実験、幹線バス路線の整備等を順次実施しており、その結果、一部で公共交通利用者数が回復傾向を示すなど、市民の公共交通への関心が高まりつつあることから、これらを契機に平成 22 年度より「とやまレールライフ・プロジェクト」として、住民一人ひとりが交通手段をかしこく選択できるようなコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）を展開し、公共交通のさらなる利用促進を図っている。

本事業では、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進するうえで、市民一人ひとりが、環境や社会について意識を向け、自発的にクルマと公共交通のかしこい利用を考えた交通行動をとることができるよう、小学生という早い段階から公共交通利用について意識醸成を図ることを目的に、小学校で実施可能な富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラム（以下、学習プログラム）の確立・実施を目指す。

あわせて保護者を含めた市民に対して啓発活動を展開する一連のモビリティ・マネジメントにも取り組むことで、公共交通の利用促進につなげる。

今年度から 3 ヶ年は、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成 26 年度からの事業の本格実施を目指す。

1-2 事業内容と検討体制



第2章 協議会および検討部会の設置・運営

2-1 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会

(1) 目的

本事業に対して総合的な検討を行うため、富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会を設置した。

(2) メンバー

○委員

所 属	氏 名
金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 教授	高山 純一
玉川大学 教育学部 教育学科 教授	寺本 潔
富山市立五福小学校 校長	柳内 誠治
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部 部長	岡田 浩子
富山市教育委員会 学校教育課 主幹指導主事	古木 繁行
富山市PTA連絡協議会 会長	水野 雅人
国土交通省 北陸信越運輸局 交通環境部 環境課 課長	平尾 和也

○事務局

所 属	氏 名
富山市 都市整備部 交通政策課 課長	大場 一成
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	東福 光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主任	中山 崇
株式会社 計画情報研究所 研究員	北川 真理
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西 友世

2-2 検討部会

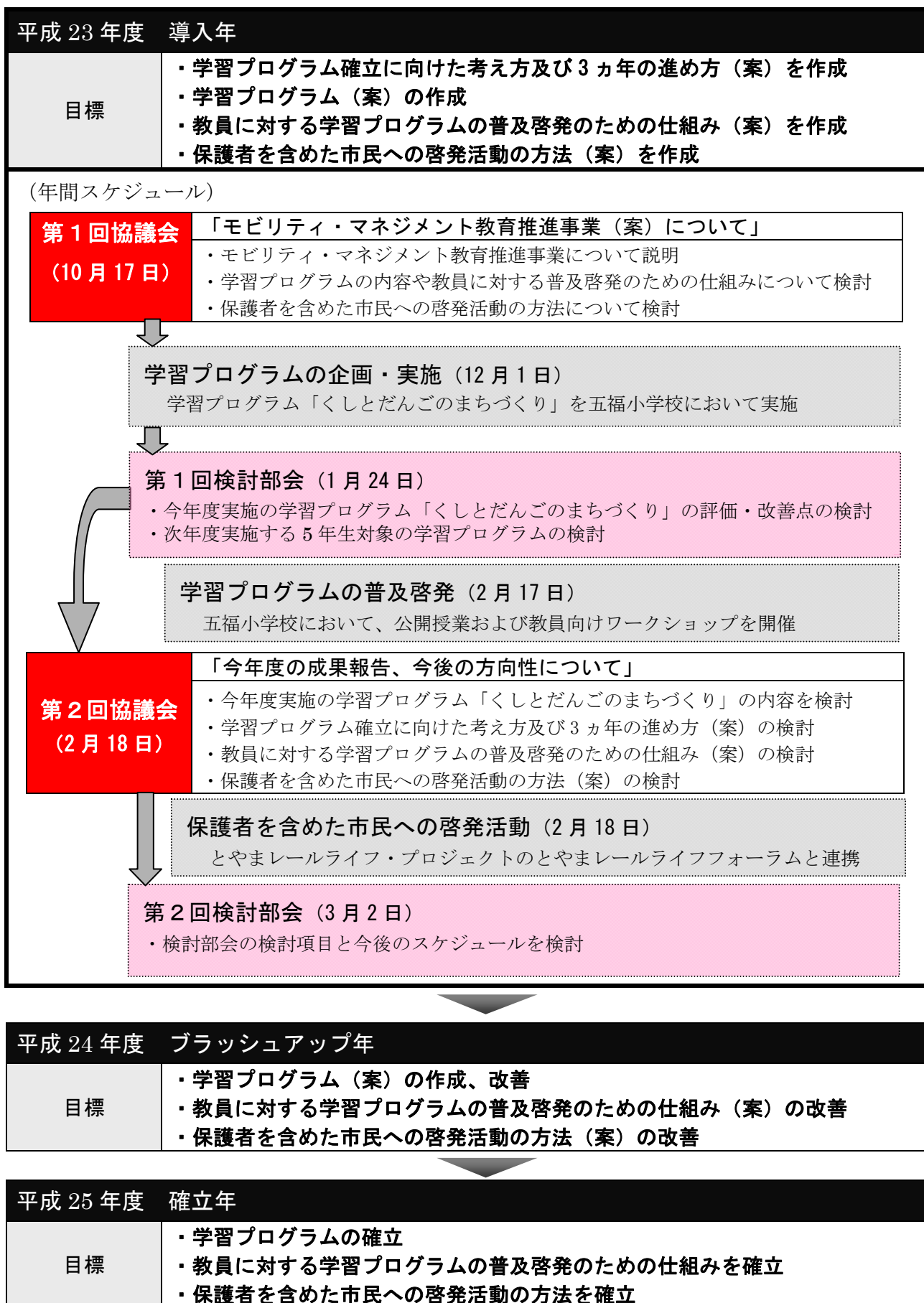
(1) 目的

現場のニーズに合った学習プログラムの内容等の検討を目的に、日頃から熱心に小教研活動（社会科部会、総合部会）に取り組んでいる教員の方々から構成される検討部会を設置した。

(2) メンバー

所 属	小学校	氏 名	担当学年
実践校	五福小学校	柳内 誠治(座長)	校長
社会科部会	保内小学校	劔田 秀則	4年
	速星小学校	津幡 和英	3年
	五福小学校	藤嶋 広樹	5年
総合部会	呉羽小学校	堀 泰洋	6年
	東部小学校	渡辺 純恵	5年

2-3 協議会と検討部会の検討内容とスケジュール



第3章 学習プログラムの企画・実施

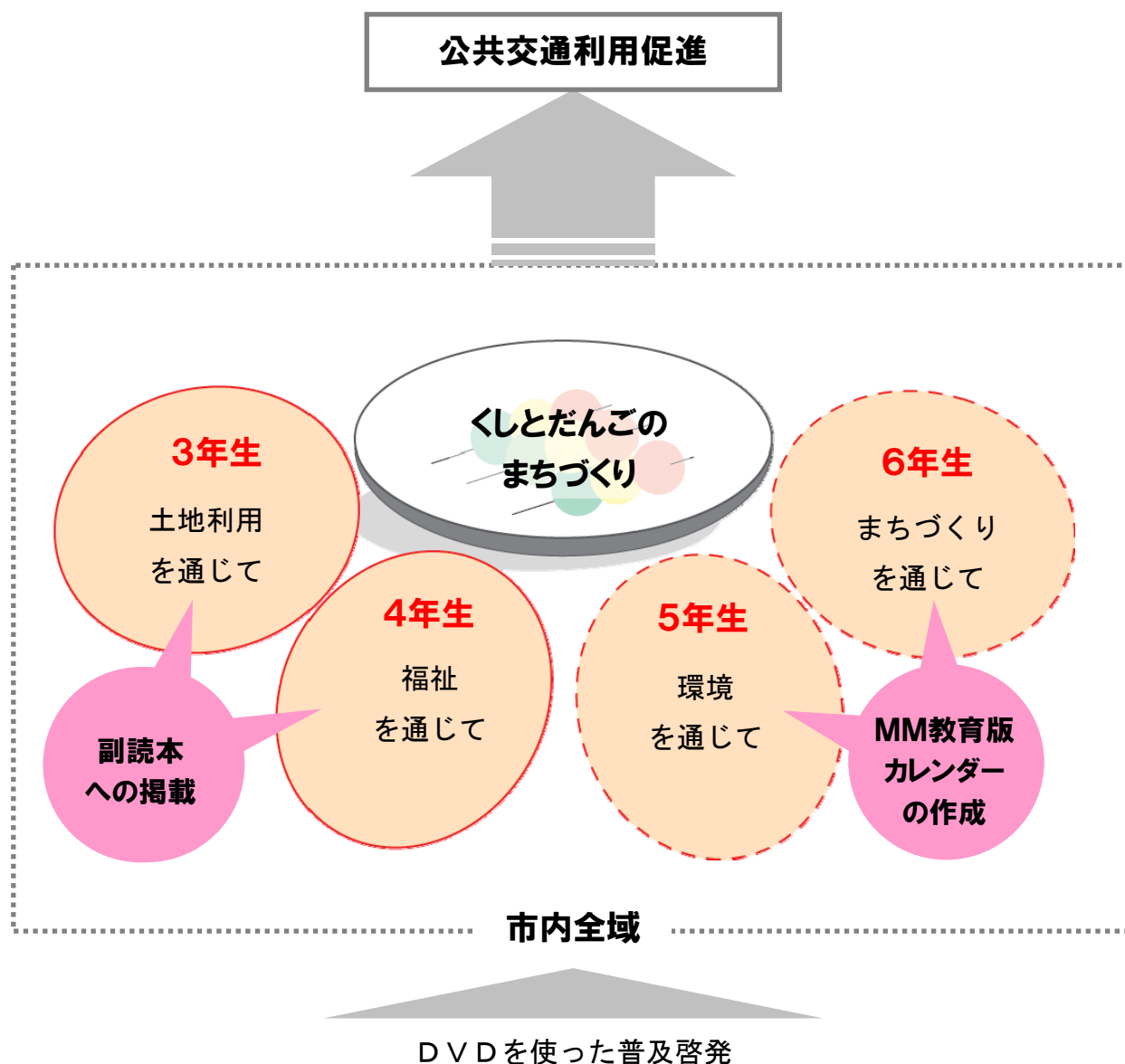
3-1 学習プログラム確立に向けた考え方

モビリティ・マネジメント教育推進事業は、公共交通利用促進を最終目標としており、3～6年生の4学年において、市内全域での学習プログラムの実施を目指す。

3・4年生では、市内全域での実施を実現させるため、教員が取り組みやすい3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す。5・6年生では、社会科や総合的な学習の時間など、幅広い関連づけを行って実施していただくことを目指し、ESDカレンダーのモビリティ・マネジメント教育版カレンダーの作成を目指す。

学習プログラムでは、3～6年生の各学年において「くしとだんごのまちづくり」の理解を通して、公共交通利用促進を目指すことを柱とする。

また、教員に対して学習プログラムの普及啓発を図るため、学習の目的や授業風景などを収録したDVDの製作を行う。



3-2 副読本への掲載に向けて

3・4年生では、市内全域での実施を実現させるため、教員が取り組みやすい3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指すにあたり、副読本編集員である検討部会の教員にヒアリングを行った。

【ヒアリングまとめ】

○副読本に掲載された場合の授業イメージと掲載のイメージ

- ・掲載された場合の授業への活用の仕方は、学校、教員の考え方、アイデアにより違う。副読本は、資料集として取り扱われる。
- ・資料等は自分で準備することとなるため、材料の提供があれば実施しやすい（資料をダウンロードできる環境もあれば良い）。

○副読本に掲載してもらうためのスケジュールと手続き

- ・（予算計上も含めて）平成24年度に検討部会で材料を準備し、平成25年度に編集委員会に掲載のための検討をしていただく。
- ・ページの増加ならやりやすいが、レイアウトの変更は大変である。

○編集員の意識啓発

- ・掲載について理解を得るためには、必要性を訴えるものが必要。「何故やらなければいけないのか」を理解してもらう必要がある。

○副読本の改変予算について

- ・編集委員会の事務局は教育センターであり、ページを増やす場合は予算計上が必要と予想される。

3-3 学習プログラム企画・実施結果

学習プログラムの企画と実施結果を以下に示す。

学 年	企 画	実 施
3 年生	「くしとおだんごのまちづくり」	○
4 年生	「富山の交通とくらし」	○
5 年生	「富山市の環境を守るためのとりくみ」(素案)	—
6 年生	「くしとおだんごのまちづくり」 6 年生向けに変更し、来年度実施することを決定	—

表 学習プログラム実施詳細

	学習プログラム	実施小学校	クラス数	実施日
3 年生	くしとおだんごのまちづくり	五福小学校	2 クラス	平成 23 年 12 月 1 日(木)
4 年生	富山の交通とくらし		1 クラス	平成 24 年 2 月 17 日(金)

3-4 今年度実施学習プログラムの内容と評価

(1) くしとおだんごのまちづくり

①学習プログラム内容

学年	3年生
校時	1時限座学、3時限乗車体験
連携教科	社会科、総合的な学習の時間
学習場所	教室、屋外

富山市の「くしとおだんごのまちづくり」について座学を1時限行い、貸切バスで富山駅北へ移動の後、2班に分かれて「くし」の1つであるポートラムの乗車体験と車両基地見学を2時間程度実施した。

学習の流れ	時間配分	実施内容
座学	11:35 (3分)	児童集合・開会あいさつ
	(20分)	くしとおだんごのまちづくり -ポートラムを知ろう- パワーポイント説明
	(12分)	意見交換
	(10分)	調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをまとめる
昼休み		
富山駅北へ移動	13:30 (30分)	富山駅北へ貸し切りバスで移動
ポートラム乗車体験	(15分)	富山駅北から城川原までポートラムで移動
車両基地見学 (くし体験) A班	(35分)	車両基地見学→城川原駅で電停説明、トイレ休憩
ポートラム乗車体験	(15分)	富山駅北で電停説明
車両基地見学	(15分)	富山駅北から城川原までポートラムで移動
(くし体験) B班	(20分)	車両基地見学、トイレ休憩
小学校へ移動	(30分)	五福小学校へ貸し切りバスで移動
	15:20	終了

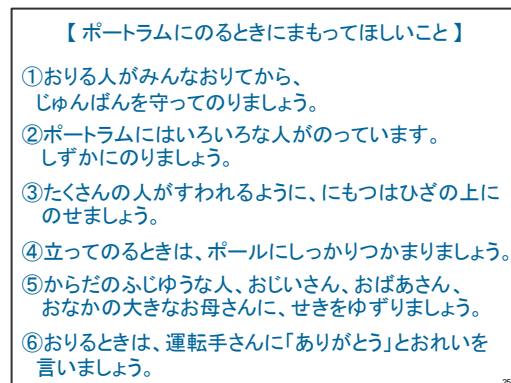
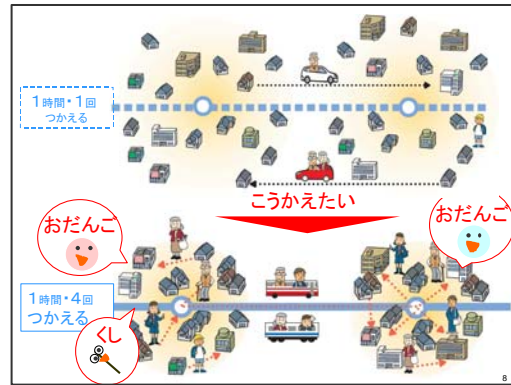
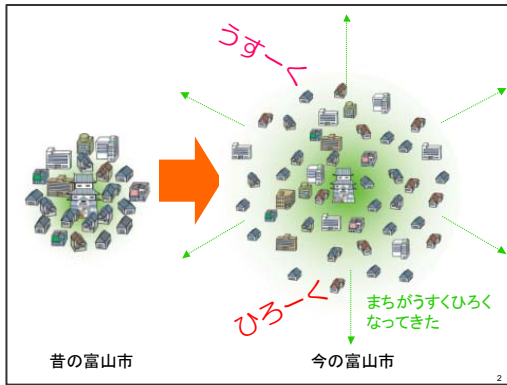
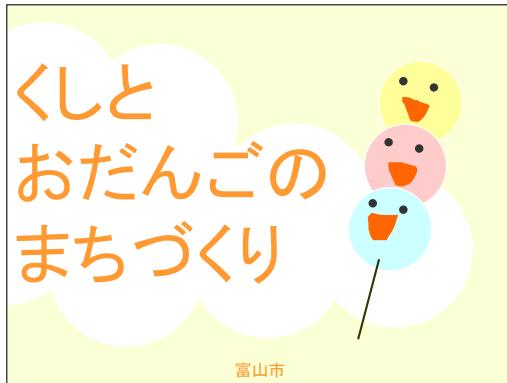
○参考 実際のタイムスケジュール

		小学校教員	児童	富山市役所	ライトレール	計画情報研究所
座学	10:30	五福小学校集合	—	—	—	■準備
	11:35 (3分)	児童集合・開会あいさつ	■児童を整列・着席させる	■あいさつを聞く	■あいさつ	■写真撮影
	11:38 (20分)	だんごくしのまちづくり —ポートラムを知るう —パワーポイント説明	■適宜補助	■パワーポイントの説明を聞く	■パワーポイント説明	■パワーポイント説明 ■パソコン操作
	11:58 (12分)	意見交換	■適宜補助	■挙手で発表	■感じたこと、分ったことを児童に発表させる ■実際にポートラムに乗って調べたいこと、確認したこと、聞きたいことを確認す	■写真撮影
	12:10 (10分)	調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをまとめる	■クラスで出し合って決めた調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをプリントに書かせる	■クラスで出し合って決めた調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをプリントに書く	■児童の補助	■写真撮影 ■児童の補助
	12:20 昼休み					
富山駅北へ移動	13:30 (30分)	富山駅北へ貸し切りバスで移動	■児童の誘導	■貸し切りバスで移動	■児童の誘導補助	■写真撮影
ポートラム乗車体験(くし体験) A班	14:00 (15分)	富山駅北から城川原までポートラムで移動	■児童の誘導	■ライトレール乗車	■児童の誘導補助	■写真撮影
	14:15 (35分)	車両基地見学→城川原駅で電停説明 トイレ休憩	■児童の誘導	■説明を聞く	■児童の誘導補助	■車両基地説明 ■電停説明 ■写真撮影
ポートラム乗車体験(くし体験) B班	14:00 (15分)	富山駅北で電停説明	■児童の誘導	■ライトレール乗車	■児童の誘導補助	■電停説明 ■写真撮影
	14:15 (15分)	富山駅北から城川原までポートラムで移動	■児童の誘導	■ライトレール乗車	■児童の誘導補助	■写真撮影
	14:30 (20分)	車両基地見学 トイレ休憩	■児童の誘導	■説明を聞く	■児童の誘導補助	■車両基地説明 ■写真撮影
小学校へ移動	14:50 (30分)	五福小学校へ貸し切りバスで移動	—	—	■あいさつ	■写真撮影
	15:20	終了・解散	終了・解散		撤去・終了	

■おもに進行する人

②作成教材

最初の座学 1 時限で、富山市のくしとおだんごのまちづくりとポートラムについて学習するためのパワーポイントとその説明用資料を作成した。



作成したパワーポイント（抜粋）

③実施風景

○座学



○ポータラム乗車体験



○車両基地見学



【北日本新聞 (2011. 12. 2)】

乗りやすい!ポートルム

車両基地見学 特徴学ぶ

人や社会、環境に優しい交通について考える「モビリティ・マネジメント教育」の授業が1日、富山市五福小学校の児童を対象に行われた。3年生約50人が富山ライトルールの路面電車「ポートルム」の車両基地を見学し、低床などの特徴を学んだ。【webunに写真3枚】

富山・五福小が環境学習



ポートルムの車両基地で、片山課長(右)から車両についての説明を聞く児童

モビリティ・マネジメント教育は、交通と環境に関する子どもの意識を育む教育活動。市が2014年度からの本格実施を目指し、小学校3、6年生を対象とした富山版交通環境学習プログラムの確立に取り組んでいる。この日は試験的な授業を初めて行った。

児童は五福小学校で公共交通機関の役割について説明を聞いた後、バスでポートルムの富山駅北電停に移動。同電停から城川原電停まで試乗した。

同電停にある車両基地では、富山ライトルールの片山尚之経営企画課長が「車両の床とホームの高さが同じなので車椅子やベーカーも乗り降りしやすい」などとポートルムの特徴について話した。児童はヘルメットを着けて車両の下に潜り込み、床を低くするため左右の車輪がつかないことを確認した。

炭谷明依さんは「初めてポートルムに乗って楽しかった。段差がなくて乗りやすいところがすごい」と話した。

【富山新聞 (2011. 12. 2)】

ポートルム特徴学ぶ

富山市交通環境学習

富山市の交通環境学習は1日、同市五福小で開かれ、3年生50人が、ポートルムの乗車体験などを通じ、公共交通機関を利用したまちづくりについて理解を深めた。人や社会、環境に優しい交通について考える「モビリティ・マネジメント事業」の一環として初めて行われた。

市職員は同小で、密集したまちを「団子」に例えて、公共交通機関は複数の団子をつなげる「串」の役割を担うと児童に説明した。児童は富山駅北電停から城川原電停までポートルムに試乗した。

城川原電停の車両基地では、ポートルムの職員が、車いすやベーカーが乗車しやすいように床が低くなっているなど特徴を話した。岩城さなさんは「公共交通機関が整備されて、もっと買い物が便利になってほしい」と話した。



環境に配慮したまちづくりを学ぶ児童 富山市五福小

④実施成果

i) 児童ふりかえりシート

学習プログラム実施後、全児童に学習内容をふりかえる感想文を書いてもらった。ポートラムの魅力だけではなく、富山市の「くしとだんごのまちづくり」の大切さについて一定の理解が得られていることがうかがえる。

記入例

「くしとおんだんごのまちづくり」をまなんでかんじたこと、わかったこと

12月 | 日木 曜日 名前

題: じょうがわら車両つき地

今日ポートラムの学習しました。今富山市がとりくんでいることやポートラムの名前をベンキョウしました。ほかにもポートラムの工夫ポートラムはどんなことをめざしているかを教えてもらいました。平日は4300人位来られますと聞いた時ぼくはびっくりしました。土日は3800人位来るそうです。こんどまたポートラムに乗りたいたいです。

「くしとおんだんごのまちづくり」をまなんでかんじたこと、わかったこと

12月 | 日木 曜日 名前

題: 「くしとおんだんごのまちづくり」をまなんでかんじたことわかったこと

いろいろないない、色があるのだなと思いました。ライトールには乗ったことあるけど、足もなど、そういうことはあんまり気にしていませんでした。「くしとおんだんごのまちづくり」は、さいしょ、みだるう? とおもうていたけど、すこくたいせつなことでびっくりしました。

わたしは、「おんだんご」をふやしていきなうと思います。話の中で色は7色あるといっていたけど、今乗るのは、きいろのライトール(ポートラム)でした。いろいろなことをまなんで、すこく、楽しかったし、すこく、ばん弓矢になりました。

ii) 児童への事前事後意識変化アンケート

学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、約8割の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

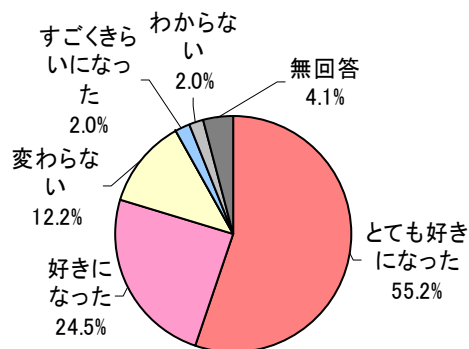
学習ステップ1：公共交通を好きになる

問1. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

N= 49

項目	件数	割合
とても好きになった	27	55.2%
好きになった	12	24.5%
変わらない	6	12.2%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	1	2.0%
わからない	1	2.0%
無回答	2	4.1%
合計	49	100.0%

79.7%



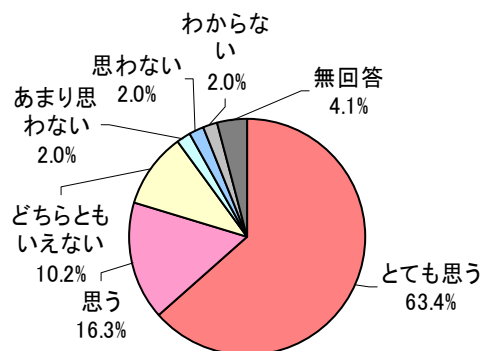
学習ステップ2：公共交通を利用したいと思う

問2. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

N= 49

項目	件数	割合
とても思う	31	63.4%
思う	8	16.3%
どちらともいえない	5	10.2%
あまり思わない	1	2.0%
思わない	1	2.0%
わからない	1	2.0%
無回答	2	4.1%
合計	49	100.0%

79.7%



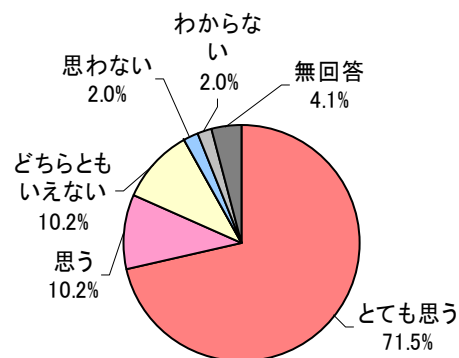
学習ステップ3：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

N= 49

項目	件数	割合
とても思う	35	71.5%
思う	5	10.2%
どちらともいえない	5	10.2%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	1	2.0%
わからない	1	2.0%
無回答	2	4.1%
合計	49	100.0%

81.7%



iii) 実施校教員ヒアリングでのご意見

■事業に対するご意見

- くしとおだんごのまちづくりは、環境面で大切である。
- 教員自身がクルマ中心の生活を送っているため、授業実施方法が難しい。
- 児童にとってポートルムが身近な地域であれば実施しやすい。

■全体を通しての感想

- まちづくりや、かしこいクルマの使い方は、5～6年生でなければ理解できない。
- 外部講師の場合、児童は興味を持って話を聞く。
- 城川原から富山駅間もポートルムで移動すると良い。

■児童の反応・理解度

- 児童は、くしとだんごの考え方を理解し、授業に集中していた。

■学習プログラムの関連づけ・教科との関連

- 今回、既存の学習との関連づけは行わなかった。
- 3年生5～6月の社会科「わたしたちの富山市」で関連づけができる。しかし、ポートルムに乗車する学習の流れが必要と考える。
- ポートルムが身近な存在である地域、総合的な学習の時間のテーマが環境の場合、総合的な学習の時間で実施可能である。ただし、クラス内でグループに分かれて学習している場合は難しい。
- 遠足と関連づけて実施することも可能である。

■先生ご自身での実施可能性

- 教員自身が理解していない内容を児童に説明することは難しい。教員用の事前学習資料は簡単に読めるものでなければ読まない。関連づけがわかるESDカレンダーのようなもの、教員用の授業案、児童説明用にスライド説明のDVDがあると良い。「3年生の地図学習」のような副教材は、授業実施後の補助的な役割を担う。
- 教員に実施していただくためには、前年度の3月に話をする必要がある。総合的な学習の時間の年間カリキュラムに入れば継続的に実施される。または、教科書に掲載されるなどの強制力がなければ実施しづらい。総合的な学習の時間の年間カリキュラムに入れるには、校長や教頭を説得する必要がある。出前授業であれば実施する。

iv) 検討部会でのご意見

■全体を通しての感想

- 座学内容の説明時間が短すぎる。
- 教員にとって、校外に出て見学を行うことができるという点は魅力的である。

■学習プログラムの関連づけ・教科との関連

●社会科

- これまで学習してきたことの発展であれば実施可能である。
- 3年生の社会科「市の様子」の小単元（6～7月実施）と関連づけができる。ポータルが身近ではない地域の場合、バスや鉄道を取り上げることが考えられる。
- 5年生の社会科「わたしたちの生活と食料生産」の単元の導入（6月実施）と関連づけができる。
- 6年生の社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の単元（12月実施）で実施することが最も適している。

●総合的な学習の時間

- 3年生の総合的な学習の時間の最初に本学習プログラムを単発で実施して学習の基礎とすることが考えられる。

■先生ご自身での実施可能性

- 児童にとってポータルが身近な地域であり、教員が学習内容を理解できれば実施可能である。学習のねらいにそって、児童に理解して欲しいことを考えさせるためのワークシート（A4両面）とPPT、PPT説明文があれば良い。
- 実際は車で移動している児童が多いため、公共交通は利用されていない。逆説的に本学習プログラムを実施することは可能だが、児童が実感を持って学習することは難しい。

⑤今後のとりくみ

今年度実施した3年生対象の本学習プログラムは、児童や実施校教員から高評価を得ている。ただし、検討部会と実施校教員ヒアリングにおいて、ポータルが身近ではない地域では鉄道やバスを使った学習プログラムの開発が必要というご意見をいただいた。また、検討部会において、本学習プログラムは6年生での実施が適しているというご意見もいただいた。

●3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す

●6年生社会科「わたしたちの願いを実現する政治」（12月実施）と関連づけた学習プログラムの企画・実施

●ポータル以外の鉄道やバスなどの公共交通を使った学習プログラムの企画・実施

(2) 富山の交通と暮らし ～富山市のおでかけバスって知ってる？～

①学習プログラム内容

学年	4 年生
校時	1 時限
連携教科	社会科
学習場所	教室
本時のねらい	社会科単元「わたしたちの富山県」の学習の一部として、富山県が置かれている交通の現状とその解決策について仲間と話し合い、バスを中心にした公共交通のよさに気付くことができる。

	学習内容	指導上の留意点
導入	<ol style="list-style-type: none"> 「おでかけバス定期券」を見て知っていることを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 富山市内どこからでも中心市街地や市民病院にでかける場合、バス料金が 100 円に割引。 市内在住の 65 歳以上の高齢者に限定。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期券と利用区間の地図の拡大を黒板に貼り、丁寧に定期券のメリットを確認させながら読みとらせる。 中心市街地の中で移動する場合でも 100 円であること、中心市街地から少し離れた市民病院へも利用できることを確認。
展開	<ol style="list-style-type: none"> 定期券利用者の推移を示したグラフを読み取り、順調に伸びている事実を確認する。 どうして富山市は「おでかけバス事業」を事業化したのか、その理由を考え合う。 <ul style="list-style-type: none"> 交通弱者である高齢者のため中心市街地に人を呼び込むため バスに乗る人を増やすため 通勤通学でバスを利用する人の割合の変化を読み取り、考えたことを班で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の数が多く、その内で女性が多い割合を占めていることを強調し、その理由についても挙げさせる。 中心市街地に何の用事で出かけるのか、わざわざバスを利用しなくてはならない高齢者の置かれている背景に気付かせたい。 「100 円ではバス会社はもうからないのではないか」とゆさぶり、市の補助があることを予想させる。 割合の意味を教師が解説した後、予想以上にバス利用者が減ってきている事実に触れながら、自家用車中心の交通に傾いている富山県(市)の交通問題の傾向をつかませる。
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 「バスや鉄道が減り、車がこんなに多くを占めていくことは本当に(県民一人一人にとって)良いことなのか？」について話し合い、問題点を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 交通渋滞や事故が増える。 自動車が運転できない人は困る。 排気ガスで空気が汚れる。 車は維持するのにお金がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「このままでいくと、みんなが 65 歳になったときに果たして富山ではバスは動いているのだろうか？」と投げかけて自分の問題に引き寄せるように促す。

②実施風景



③実施成果

公開授業として実施した本学習プログラムについて、参加した教員にアンケートを実施し、6票の回収を得た。

【アンケートまとめ】

- ・授業に対する評価は高く、先生ご自身でも実施可能だと回答された方が多い。
- ・学習プログラムの関連づけ・教科との関連としては、4年生社会科の「わたしたちの富山県 交通と暮らし」の単元に関連づけることは難しいという意見が多い。
- ・改善方法としては、児童の資料や体験の不足や、富山県の学習をしているなかで富山市の学習を行うことの位置づけが挙げられている。関連づけの可能性としては、6年生社会科「わたしたちの願いを実現する政治」がもっとも多く挙げられている。

授業に対する評価

問1. 本日の授業の評価と、その理由をお聞かせください。

項目	件数	理由
非常に良かった	2	・教材、発問が適切であった。 ・事実を教えて考えて、さらに事実をおさえるという展開が、児童の理解を深めていた。 ・45分で完結しているのは良かった。
良かった	3	・流れがはっきりしていた。 ・ねらいが明確で分かりやすい授業であったが4年生には難しい内容。 ・授業のねらいに向けてコンパクトな流れで児童の思考を促していた。 ・児童が考え、つながり合うという場面がしっかりあって良かった。
どちらでもない	1	・児童に何をわからせたいか、私にはつかめませんでした。
あまりよくなかった	0	
よくなかった	0	
合計	6	

先生ご自身での実施可能性

問2. 本日の授業をご自身で行うことは可能ですか。

可能 4件 / 難しい 2件

問3. 問2で「②難しい」と回答された方は、どのような支援があれば可能ですか。

- ・どんなことを考えさせるかピンとこなかった。
- ・資料収集(データ)が必要。

学習プログラムの関連づけ・教科との関連

問4. 本日の授業を4年生社会科の「わたしたちの富山県 交通とくらし」の単元に関連づけることは可能だと思いますか。

可能 1件 / 難しい 5件

問5. 問4で「②難しい」と回答された方は、どのような改善をしたら関連づけが可能だと思いますか。または、どの単元だと関連づけ可能だと思いますか。

<改善方法>

- ・児童に分りやすく、富山市の視点に立つための資料や体験が不足している。
- ・公共交通利用の利点が中心地活性化では、郡部小学校で扱うことに抵抗感がある。
- ・6年生の政治分野での実践が望ましい。4年生では今回以上の予想や理解を引き出すのは難しい。
- ・交通問題や交通費への市の補助にまで考えるのは4年生には難しい。「おでかけバス事業」を通して「市が中心市街地の活性化を目指している」という点にねらいをしばれば良い。あるいは高齢者の社会参加。
- ・4年生において、富山県の学習のなかで富山市に特化した内容をどう位置づけるか、ねらいをどこまで具体化するか(下げるか)が重要。

<関連づけの可能性>

学年	教科
5年生	環境(1件)
6年生	社会科「わたしたちの願いを実現する政治」(5件)
4~6年生	総合的な学習の時間(3件) <ul style="list-style-type: none">・福祉施策。・交通による生活環境の変化。・環境・地域。

自由意見

問6. 今回の授業や本事業に対するご意見を聞かせてください。

- ・「お出かけ定期券」を切り口に幅広く学習できる、良い教材である。
- ・コンパクトなまちづくりをテーマにした総合的な学習の時間の導入や、学習を深める場など、学習の全体像のなかで本時をどのように位置づけるかを考えると良い。
- ・教育現場で子供の頃から、行政施策の浸透を進めていくことの大切さは感じる場所である。

④今後のとりくみ

今年度実施内容を基本とし、検討部会や実施校教員のご意見を踏まえて学習プログラムの確立を目指す。

- 3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す
- 4年生社会科「わたしたちの富山県」(12~3月実施)と関連づけた学習プログラムの企画・実施

3-5 来年度以降実施の学習プログラム内容

(1) 富山市の環境を守るためのとりくみ

①学習プログラム内容

学年	5年生
校時	1～4時限程度
連携教科	社会科「環境を守るわたしたち」
学習場所	未定
流れ	富山市の自動車保有台数が増加し、二酸化炭素排出量が増加していることを示し、二酸化炭素排出量を減らすために富山市の環境にやさしいまちづくりについて学習を行う。

②今後のとりくみ

- 5年生社会科「環境を守るわたしたち」(2～3月実施)と関連づけた学習プログラムの企画・実施

【参考】

■ 検討部会でのご意見

- 児童が公共交通の便利さを体感できる学習プログラムだと良い。
- 5年生の社会科「環境を守るわたしたち」の小単元(2～3月実施)と関連づけさせることが考えられる。教科書には、京都の鴨川の環境を守った事例が掲載されている。この単元と関連づけし、富山市独自の二酸化炭素排出量削減に関する取り組みの学習プログラムを開発することが考えられる。富山市の自動車保有台数が増加し、二酸化炭素排出量が増加していることを示し、二酸化炭素排出量を減らすために富山市の環境に優しいまちづくりがあり、そのなかにセントラムやポートラムがあるという学習の流れができる。

(2) くしとおだんごのまちづくり(6年生版)

①学習プログラム内容

学年	6年生
校時	1時限座学、3時限乗車体験
連携教科	社会科「わたしたちの願いを実現する政治」
学習場所	未定
流れ	今年度3年生で実施した「くしとおだんごのまちづくり」を基本とする

②今後のとりくみ

- 6年生社会科「わたしたちの願いを実現する政治」(12月実施)と関連づけた学習プログラムの企画・実施

第4章 教員に対する学習プログラムの普及啓発

4-1 実施結果

(1) 公開授業

実 施 日：平成 24 年 2 月 17 日（金）1 時限

実 施 場 所：五福小学校

実 施 者：玉川大学教育学部教育学科 教授 寺本 潔 氏

実施校・学年：五福小学校 4 年生 1 クラス

学習プログラム：富山の交通とくらし ～富山市のおでかけバスって知ってる？～
(社会科「わたしたちの富山県」の単元で実施)



(2) 教員向けワークショップ

実 施 日：平成 24 年 2 月 17 日（金）

実施場所：五福小学校

参 加 者：小学校教員 15 名（検討部会メンバーを含む）、寺本教授、高山教授、
交通エコロジー・モビリティ財団職員 1 名、
北陸信越運輸局職員 2 名、富山運輸支局職員 1 名、富山市職員 5 名、
コンサルタント 2 名

実施結果：

- ・寺本教授による公開授業をもとに、学習プログラムの確立に向けて参加者による意見交換を行った。
- ・参加者からは、学習の流れは良かったが、学習内容は 4 年生には難しく、6 年生での実施が適しているという意見、児童に提供する情報を増やすことで、より児童の理解が深まるという意見が出された。教員が実施する場合、教員用の指導案、児童用のワークシートがあると良いという意見も出された。



(3) 教員の先進地視察

実施日：平成24年2月7日（火）、8日（水）

視察先：屯田小学校、札幌市役所 市民まちづくり局 総合交通計画部 都市交通課

参加者：五福小学校 柳内校長、富山市職員2名、コンサルタント2名

実施結果：

○札幌市役所職員やコンサルタントに対するヒアリング

- ・札幌市におけるモビリティ・マネジメント教育の取り組みについてヒアリングを行った。札幌市では、1～6年生の全学年においてモビリティ・マネジメント教育を実施することを目指しており、教育課程編成の手引への掲載を目標に、学習プログラムの検討を行っている。

○公開授業の見学、教員向けワークショップへの参加

- ・屯田小学校において、5年生社会科「くらしを支える情報」の単元と関連づけた教員が主体となったモビリティ・マネジメント教育の公開授業を見学し、公開授業参加者が意見交換を行う教員向けワークショップに参加した。教員向けワークショップでは、社会科とモビリティ・マネジメント教育の2つの学習目標を達成することの難しさなどが話し合われた。



公開授業



教員向けワークショップ

4-2 今後の普及啓発のための取り組み

(1) 校長会でのPR

校長にモビリティ・マネジメント教育への理解、興味を深めてもらうため、校長会でモビリティ・マネジメント教育推進事業のPRを実施する。

(2) 教員の先進地視察

教員の方々に、実際の授業風景を通じて、モビリティ・マネジメント教育への理解、興味を深めてもらうため、先進地への視察を行う。

(3) 教員向け公開授業とワークショップの開催

教員の方々にモビリティ・マネジメント教育への理解、興味を深めてもらうため、公開授業とワークショップを開催する。

【参考】

■ 実施校教員ヒアリングでのご意見

- 来年度の実施校は、ポータルが身近な存在の小学校（桜谷小学校など）、総合的な学習の時間に力を入れている小学校（中央小学校など）に依頼すると良い。
- 長期的に実施校を増やすためには、校長や教頭に周知すると良い。
- 保護者への普及は、学年だよりを通じた情報発信、授業参観後に希望の保護者を対象とした説明会の開催が考えられる。

■ 検討部会でのご意見

- 本年度実施の学習プログラム「くしとだんごのまちづくり」は、教員が学習内容を理解できれば教員自身で実施可能である。まずは、教員に対して、本事業の周知が必要である。

第5章 保護者を含めた市民への啓発

5-1 実施結果

〇とやまレールライフフォーラムの開催

実施日：平成24年2月18日（土）

実施場所：富山県民会館

主催者：富山市

実施結果：

- ・とやまレールライフ・プロジェクトにおいて開催されるフォーラムと連携し、市民へのモビリティ・マネジメント教育推進事業の啓発活動を行った。
- ・フォーラムでは先生方より次のようなお話をいただいた。
 - ・「人と人が出会う場、交流する場が都市であり、都市の活力である（藤井聡氏（京都大学大学院教授））」
 - ・「今後は児童の公民的資質が重要視されるため、シチズンシップ（ふるさと意識、公共への参加意識）の育成が重要である。（寺本潔氏（玉川大学教授）」

とやまレールライフプロジェクト
TOYAMA RAIL LIFE PROJECT

とやまレールライフフォーラム

平成24年2月18日(土)
14:00~17:00 (13:30開場)

富山県民会館
3階特別会議室 入場無料

基調講演

富山で「レールライフ」
～電車とバスを使う量が増えらして～

講師：藤井 聡
京都大学大学院工学部教授
国土交通省「国土強靱化戦略推進委員会」委員
国土交通省「国土強靱化戦略推進委員会」委員
国土交通省「国土強靱化戦略推進委員会」委員

とやまレールライフフォーラムの趣旨
富山県民会館
3階特別会議室 入場無料

14:00 開会あいさつ
14:05 基調講演
14:15 レールライフ・プロジェクト取り組み報告
14:45 『富山県のかしこレールマの新しい姿を大公開！』 藤井 聡
15:00 パネルディスカッション
15:15 閉会あいさつ

主催：富山市
協賛：富山県民会館 / 富山ライトレール / 富山地方鉄道
協賛：日本新報社 / 富山新聞社 / 北日本放送
【お問い合わせ】 富山県 都市整備部 交通政策課 TEL: 076-443-2195
【ホームページアドレス】 <http://www.toyama-rail-life.jp>

5-2 今後の啓発のための取り組み

〇日本モビリティ・マネジメント会議における実施成果の発表

平成24年8月に富山市で開催される日本モビリティ・マネジメント会議（JCOM M）において、実施校による成果発表を行う。

第6章 今後のスケジュール

6-1 3カ年の進め方

検討項目		スケジュール		
		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
くしとだんごのまちづくり	3 年生 社会科			
	3 年生 総合的な 学習の時間	○ 五福小学校で 実施	○ 1 校で実施	● 実施
	6 年生 社会科		○ 1 校で実施	● 実施
富山の交通とくらし ～富山市のおでかけバスって 知ってる?～	4 年生 社会科	○ 五福小学校で 実施(寺本教授)	○ 1 校で実施	● 実施
富山市の 環境を守るとりくみ	5 年生 社会科			● 実施
副読本掲載に向けて			← 検討部会で 材料の検討・準備	編集委員会で 検討 →
教員・市民への普及啓発		← →		

6-2 来年度の進め方

(1) 今年度のまとめ

①学習プログラムの企画・実施

- ・3つの学習プログラムを企画し、そのうち2つの学習プログラムについて実施・評価を行った。

学習プログラム	今年度の実施内容	評価内容	今後のとりくみ
くしとだんごのまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○学習プログラムの企画 ○学習プログラムの実施 (H23.12.1(木)/五福小学校3年生2クラス) ○学習プログラムの評価 (実施校教員ヒアリング、検討部会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や実施校教員から高評価を獲得 ・教員に実施していただくためには、強制力が必要 ・本学習内容は、6年生での実施が適切 ・ポータルが身近でない地域では鉄道やバスを使った学習プログラムの開発が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載 ●3年生社会科「市の様子」(6~7月実施)と関連づけた学習プログラムの改善・実施 ●6年生社会科「わたしたちの願いを実現する政治」(12月実施)と関連づけた学習プログラムの企画・実施 ●ポータル以外の鉄道やバスなどの公共交通を使った学習プログラムの企画・実施
富山の交通とくらし	<ul style="list-style-type: none"> ○学習プログラムの企画 ○学習プログラムの実施 (H24.2.17(金)/五福小学校4年生1クラス) ○学習プログラムの評価 (教員アンケート、検討部会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業に参加した教員から高い評価を獲得 ・教員に実施していただくためには、強制力が必要 ・児童が富山市の視点に立つための、児童の資料や体験が必要 ・4年生は富山県について学習をしているため、富山市の学習を行う位置づけの検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載 ●4年生社会科「わたしたちの富山県」(12~3月実施)と関連づけた学習プログラムの改善・実施
富山市の環境を守るためのとりくみ	<ul style="list-style-type: none"> ○学習プログラム(案)の企画 	—	<ul style="list-style-type: none"> ●5年生社会科「環境を守るわたしたち」(2~3月実施)と関連づけた学習プログラムの企画・実施

②教員に対する学習プログラムの普及啓発

今年度の実施内容	評価内容	今後のとりくみ
<ul style="list-style-type: none"> ○五福小学校において、教員向け公開授業とワークショップの開催 (H24.2.17日(金)) ○教員の先進地視察の実施 (H24.2.7(火)、8(水)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加教員による活発な意見交換を実施 ・教員に対して、継続した本事業の周知が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●校長会でのPR ●教員の先進地視察の実施 ●教員向け公開授業とワークショップの開催

③保護者を含めた市民への啓発

今年度の実施内容	評価内容	今後のとりくみ
<ul style="list-style-type: none"> ○とやまルールライフフォーラムと連携した啓発活動の実施 (H24.2.18(土)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通をつうじて、児童のふるさと意識や公共への参加意識の育成が必要 ・市民に対して、継続した本事業の周知が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本モビリティ・マネジメント会議における、実施校による成果発表

